

グループ紹介

「かしの木」文章グループ



昭和57年(1982年)市民講座として発足。三年後、自主講座に発展。27年の歴史を持っています。

その期間中、佐藤良和先生のご指導を得て、月に一回、学習を続けました。それぞれの会員は自己の内奥に潜(ひそ)む純粋な心を映し出し、自分自身の言詞(ことば)で原稿用紙の枠目を埋めてきました。

私どもは、日常、あらゆる自然現象、「ヒト」の動きや生活状態をつぶさに深く観察して、書き手が数多くのデータを蓄積・整理するよう努力を重ねています。

課題や自由作品に挑みつつ、一年間に書きためた作品を持ち寄って、会員相互に検討し、撰び出して、一年の終わりに、それを纏めて自主的に編集し、『文集 かしの木』を第27集まで刊行しています。

在籍中に『自分史』を出版された会員もいます。

今年度からは、会員皆が同人であると自覚して自発的に作品を紡ぎ織り成し、文集の体裁も改め、後世に遺せる内容に仕上げたいと、年度の初めに話し合いました。

読者諸賢で、御自身の中に取り残しておられる未発見の、珠玉のような才覚や創造への夢を、探り出して、新しい世界の発見を試みられては、如何でしょうか？御自身の文を紡ぐ能力や思考力の有無を、お試しになっては如何かと、お勧めいたします。

連絡先 木村 美恵子
634-1651



『文集 かしの木』

エコ・サークル「サポアの会」



私たちのグループ、エコ・サークル「サポアの会」は、茨木市消費生活センターの啓発講座で学んでいた有志の集まりです。廃油手作り石けんを通じて環境問題を考えようと、平成14年(2002年)に発足しました。その時の指導員の先生を中心に、月1回、月末の木曜日に生涯学習センターきらめきで活動しています。グループ名の「サポア」は、洗浄成分のサポニンから、また、石けんの発祥地といわれている「サポアの丘」から名付けました。現在、メンバーは10人です。月1回の集まりでは、1時間は石けん作りに、残りの時間は身のまわりの環境問題(水質汚染や食べ物のことなど)を話し合い、そこからさまざまに話題は広がっていきます。

石けん(縦・横約5センチ、厚さ約2センチのもの)は、コップ1杯分の廃油で4個作ることができます。廃油は流してしまうと河川の水質汚染の原因になります。その廃油を利用してすばらしい石けんを作ることができるのです。しかも、安全で汚れ落ちもよく手も荒れないので、台所だけでなく風呂場や洗面所、トイレなどでも大活躍です。

私たちは月1回の集まりを心待ちにしています。会えば和気あいあいと楽しい時間を過ごします。

皆さんも参加してみませんか。



廃油からできた手作り石けん

市民インタビュー この人に会いたくて

第39回

朗読の楽しさを伝える
じょうらくじ ちか
常楽寺 知香さん

小学生の頃に朗読の楽しさを知った常楽寺さん。現在、家庭や小学校、地域などさまざまな所で朗読を披露されています。昨年は朗読コンテストに出場し、みごと大賞に。朗読の楽しさを伺いました。



朗読の魅力に触れたのはいつ頃ですか。

小学校5年生の頃、国語の教科書をみんなの前で音読した時、「上手ね」と先生にほめられ、それが自信になったのか、声を出して読むことが大好きになりました。放送委員にもなり、高校でも放送部に入りましたが、その後は読む機会もなく朗読から遠ざかっていました。

子どもができ絵本を読み聞かせるようになって、あの頃の楽しさがよみがえり、「もっと上手に読みたい」と思うようになりました。上の子どもが小学校に入った頃、地域の情報誌で朗読講座があることを知って、その技術を身に付けようと通い始めたのです。

朗読で大切なことは何ですか。

聞いてくださる方に話がきちっと伝わらなければなりませんから、何回も読み込んで、その上で自分なりに内容を深く理解するということが大切だと思います。また、人生経験が豊かな方の朗読には味があり、お上手だなあと感じることがありますので、さまざまな人の朗読を聞くことも大切なことだと考えています。作品については、聞いていただく方の年齢層によっても違いますが、きれいな日本語を使っているもの、話がわかりやすいもの、難しい言葉や熟語があまりないものなどを選んでいきます。表現は、劇ではないので作り過ぎないように自然に、聞き手がイメージできる余地を残して語るようにしています。

昨年、第1回関西朗読コンテストで大賞を受賞されたとのこと。その時の様子を聞かせてください。

コンテストは事前の審査を通過した15人が本選に進みました。細長い部屋の後ろまでマイクなしで声を届けることは大変なことでしたが、私は一番後ろの人にもしっかり聞いてもらうつもりで、絵本『島ひきおに』をお腹から声を出して読みました。大賞受賞後、審査員の先生から会場の隅々まで声がおっていたとのおほめの言葉をいただきました。コーラスをやっているのがよかったのかもしれない。

どのような活動をされているのですか。

小学校の図書ボランティアとして、月2回、木曜日の朝に、授業が始まる前の15分間、子どもたちに朗読しています。6年生が広島へ修学旅行に行く前には、戦争がどんなに悲惨なものなのか少しでも理解できるような題材を選んで読んでいます。

私は「わのわのわ」という朗読グループのメンバーとしても活動しています。今年の2月には、生涯学習センターきらめきのランチタイムコンサートに出演し、メンバーそれぞれが朗読を披露しました。また、4月には梅田でも朗読会を開きました。会場に来られた方は皆さん、熱心に聞いてくださり、涙ぐむ方もいらっしゃいました。中には「朗読をやりたい」と言われる方もいて、これからはがんばろうという気持ちが湧いてきました。

これから取り組んでみたいことは何ですか。

グループでの活動は日が浅いのでもっと活動の場が広がればいいなと思っています。個人的には地域で朗読会を開いて、本の素晴らしさを伝えたいと思います。

我が家には中学1年生と小学4年生の子どもがいて、二人とも本が大好きなんです。今も私の朗読を楽しみにしてくれていて、「午後9時30分までに宿題が終われば、本を読んであげる」と約束をしています。私もこの時間が大好きで、これからも大切にしたいですね。



朗読を練習中の常楽寺さん